

東京教区・北海道教区 理事合同研修会

北海道教区佛教壯年会連盟 広報委員会

2025（令和7年）9月3日（水）教化センター札幌別院ホールにおいて東京教区佛教壯年会連盟・北海道教区佛教壯年会連盟の合同研修会を開催いたしました。東京教区12名、北海道教区14名の参加でした。

研修会は2部制で、第1部は北海道教区石本理事長、東京教区伊藤理事長がそれぞれ教区での活動報告を行い、第2部では北海道教区 宇野哲哉教務所長からの問題提起を受けて、班分けを行い、これから佛教壯年会の方向性や、日頃の仏教活動や現状について、積極的に意見が交わされ、その後班別の発表が行われました。



班別の発表では、「若い人の居場所や寄り添える場所を作る」、「若い人からスマホの使い方を教えてもらう」、「まずは家庭内での法事などを家族がまとまってお参りすることが重要」、「教化団体の繋がりを大切にし、連携を深める」、「壮年会活動を見直し、新たな挑戦をしていくこと」などの意見がされました。



寺院を取り巻く環境が少子高齢化に伴い変化する中、年々厳しくなってきております。佛教壯年会の問題点として会員の減少が課題となり、若い世代に繋いでいかなければなりません。組織の活動の拡大の充実を図るには、朋友の輪を広げていくことを認識して、様々な取り組み

により持続的な活動ができるよう努める。お寺を支え、維持をしていく上で欠かせない存在であり、住職との相互信頼により活動が活発化され、各寺院に佛教壯年会が必要なのだと考えさせられました。東京教区とお互いの情報交換ができたことが良かったと感じ、今後も教区全体で佛教壯年会連盟を盛り上げたいと思います。

